

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	小倉聴覚特別支援学校 幼稚部棟	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう:
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.0 /5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	4.0 /5		よい

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
-------	----------------	--	-----------------	--	-------------------	--

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
------------------	----------------------	----------------	---------------------------

1 循環型社会への貢献		スコア平均	2.8
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア	2.6
	Q2/ 3 対応性・更新性	スコア	2.8
		スコア	3.1
<自由記述>	<自由記述>		
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均	4.0
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	LR2/ 1.1 節水	スコア	3.9
		スコア	4
<自由記述>	<自由記述>		
節水型便器使用、女子便所に擬音装置設置			
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均	1.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	1
	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	1
<自由記述>	<自由記述>		
4 高齢社会への対応		スコア平均	4.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価)		
	非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級		0.51
<自由記述>	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)		
建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。	非住宅: BEI値、住宅: -		0.65
	外構緑化指数		0 %
	建物緑化指数		0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小倉聴覚特別支援学校 幼稚部棟	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市小倉北区三郎丸2	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法22条区域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	20,218 m ²	作成者	平建築設計事務所
建築面積	814 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	2,096 m ²	確認者	○○○

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 76%
③上記+②以外の 76%
④上記+ 76%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
小倉聴覚特別支援学校 幼稚部棟

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.3	
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.7	
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6	
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音		2.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能	-	1.0	0.30	3.0	-		
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.30	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	2.0	0.20	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	0.20	3.0	-		
1.3 吸音	-	3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6	
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-		
1 室温	-	3.0	0.60	3.0	-		
2 外皮性能	記入例;エアフローウィンドウの採用	1.0	0.40	3.0	-		
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境		2.7	0.25	-	-	2.7	
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-		
1 昼光率	-	3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策		2.0	0.30	-	-		
1 昼光制御	-	2.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境		3.0	0.25	-	-	3.0	
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気		3.0	0.30	-	-		
1 換気量	-	3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視	-	1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御	学校敷地内では完全に禁煙としている。	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性		2.6	0.40	-	-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画	移動円滑化基準チェックリスト	4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		1.5	0.30	-	-		
1 広さ感・景観	-	2.0	0.50	3.0	-		
2 リフレッシュスペース	-	3.0	-	-	-		
3 内装計画	-	1.0	0.50	3.0	-		
1.3 維持管理		2.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	-	2.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	-	2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-		
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.1	0.30	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	1階を基準階として算出	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.4
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.0	0.30	-	-	1.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		4.5	0.50	-	-	4.5
4	効率的運用		2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水型便器使用、女子便所に擬音装置設置	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	外部に面する内壁の仕上をGL工法としている	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.5	0.20	-	-	2.5
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.3	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	2.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
	3 冷媒	CO2冷媒冷凍機	2.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		2.2	0.33	-	-	2.2
	2.1 大気汚染防止	敷地内において燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	1.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	2.0						○		○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0		-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	1.0		-		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 昼光率 昼光率 1.5%															
4.2.2 自然換気性能 自然換気有効開口面積率 3.3%															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性 執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡															
1.1.2 高度情報通信設備対応 コンセント容量 30.0 VA/㎡															
1.2.1 広さ感・景観 天井高 2.7 m															
1.2.2 リフレッシュスペース リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%															
2.2.1 躯体材料の耐用年数 想定耐用年数 30年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 想定必要間隔 20年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 想定必要間隔 0年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔 想定必要間隔 0年															
3.1.1 階高のゆとり 階高 3.6 m															
3.1.2 空間の形状・自由さ 壁長さ比率 27.2%															
3.2 荷重のゆとり 床荷重 4000 N/m2															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出 外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上 空地率 20% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制 BPI/BPI _m 0.51 断熱等性能等級 等級2相当															
2 自然エネルギー利用 自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 80.0%															
3 設備システムの高効率化 BPI/BPI _m 非住宅 0.65 住宅 - 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無 雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材 使用比率 0.0%															
3.2.1 消火剤 オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等) オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430															
3.2.3 冷媒 オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善 見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標R _w 0.40															
地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 12 m															
緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															